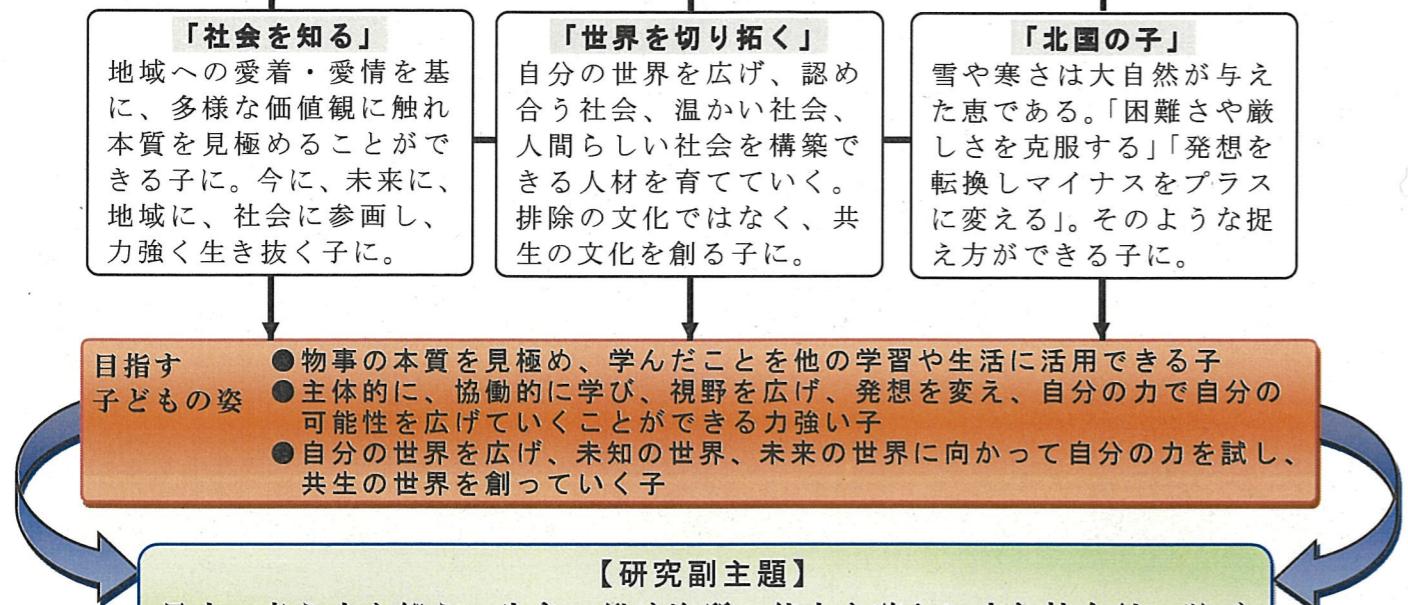


2019・2020・2021・2022年度 4か年継続研究 グランドデザイン

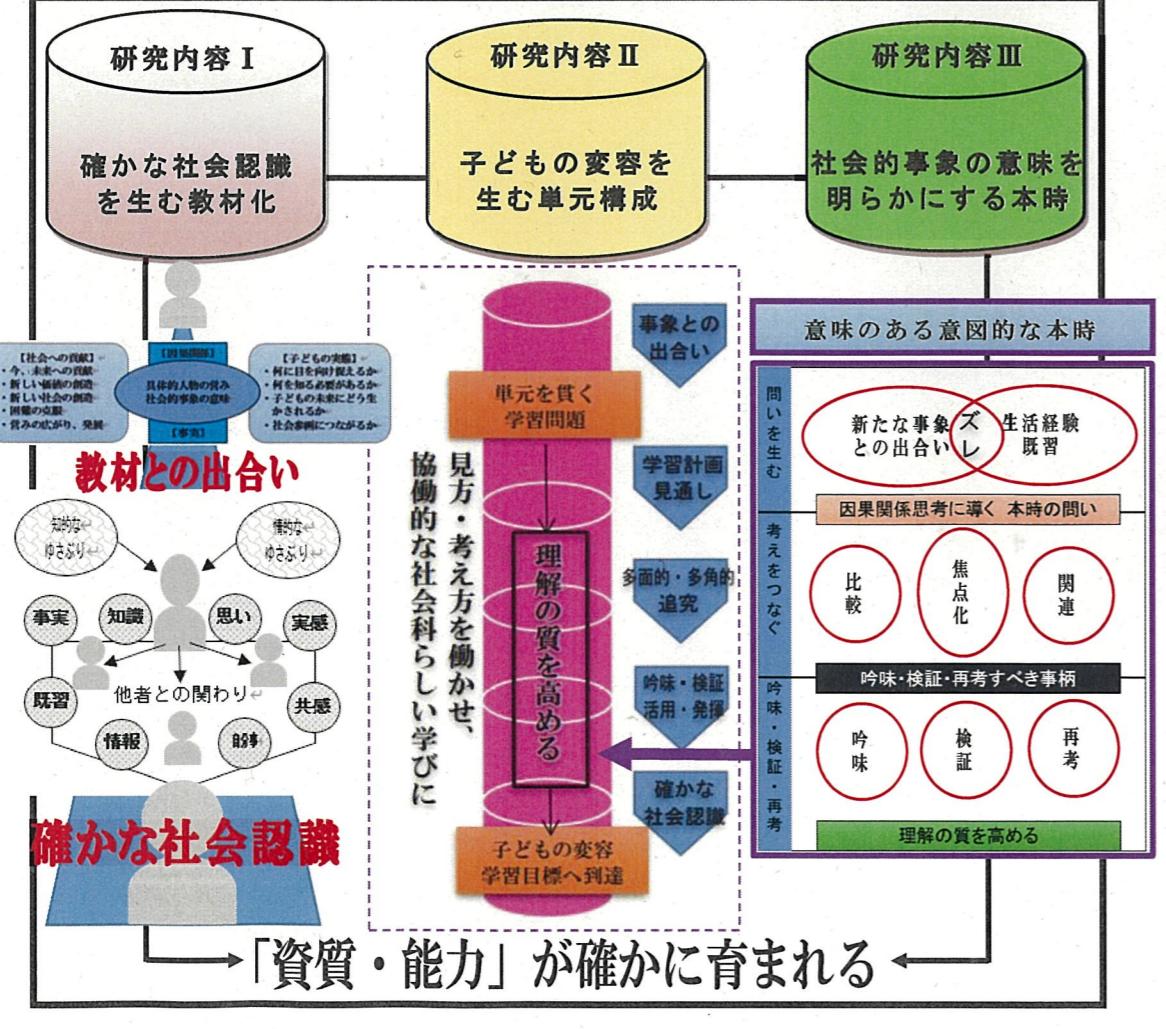
【研究主題】

社会を知り、世界を切り拓く北国の子の育成



【研究副主題】

見方・考え方を鍛え、生きて働く資質・能力を確かに育む社会科の学び



研究副主題（授業像）を具現化する研究内容

<p>研究内容 I 確かな社会認識を生む教材化</p> <p>子どもがその時代の社会の在り方と人の営みを結び付けて深く理解できるように教材化を図る。</p> <p>○具体的な人物の営みや社会的事象のもつ意味がどう社会に貢献しているのかを徹底的に深堀する。</p> <p>○事実を集め、子どもの実態と合わせて、因果関係が明らかになるように教材化する。</p> <p>【社会への貢献】 ・今・未来への貢献 ・新しい価値の創造 ・新しい社会の創造 ・困難の克服 ・営みの広がり、発展</p> <p>【因果関係】 具体的な人物の営み 社会的事象の意味</p> <p>【子どもの実態】 ・何に目を向けているか ・何を知る必要があるか ・子どもの未来にどう生きられるか ・社会参画につながるか</p> <p>【事実】</p>
<p>研究内容 II 子どもの変容を生む単元構成</p> <p>単元を貫く学習問題の設定</p> <p>子どもの主体的な追究となるように、単元を貫く学習問題を設定する。設定する際には、価値ある追究、根拠のある追究になるよう検討を重ねる。</p> <p>理解の質を高める</p> <p>学習問題を追究する過程で、子どもは知識・事実・既習・新たな情報を根拠に問題解決に向かう。その過程で、他者の考えに触れ、比較したり、つなげたり、補完したり、吟味したり、俯瞰して見たりしながら、社会的事象や人物の営みに共感する。</p> <p>変容を生む</p> <p>単元の終末において、吟味・検証・再考し、積み上げた知識を活用・発揮したりする場を設け、確かな社会認識に導き、子どもの変容を促す。</p>
<p>研究内容 III 社会的事象の意味を明らかにする本時</p> <p>単元を貫く学習問題を設定し、単元を通して理解の質を高め、子どもの変容を生むように単元を構成する。</p> <p>意味のある意図的な本時</p> <p>単元を貫く学習問題</p> <p>事象との出会い</p> <p>単元を貫く学習問題</p> <p>理解の質を高める</p> <p>問いを生む</p> <p>本時の問いとは、教師が与えるものではなく、生活経験や既習を基にした子どもの理解をゆるやかに、新たな社会的事象との出会いから、ズレが生じ、因果関係思考に導かれるものである。</p> <p>考え方をつなぐ</p> <p>教師が意図的に関わり、見方・考え方を働かせることにより、多様な考えが表出するようにしたり、追究の角度や方向を変えたり、一般化を図ったりしながら、協働的な学びを通して解決に向かうようにする。</p> <p>吟味・検証・再考する</p> <p>本時の終末において、吟味・検証・再考する場を設け、理解の質を高める。分かったつもりではなく、確実に分かる終末にする。</p>